

第19回定例懇談会

『異国船来航と幕府の海防』

日時：平成27年2月25日(水) 13:30～15:30

場所：建設コンサルタンツ厚生年金基金会議室

I 報告事項

1. 土木学会『シビル NPO 連携プラットフォーム(CNCP)』について

- (1) 当会の紹介記事
- (2) 意見交換会の開催
- (3) 会員の状況

II 審議事項

1. 提供サービスのHPへの掲載方法について

- (1) アンケートに関して
- (2) 項目全般に関して
- (3) 表—1に関して
- (4) 表—2に関して
- (5) サービス内容の具体例について
- (6) 自由意見

III 話題提供

話 題：『異国船来航と幕府の海防』

提供者：須山副理事長

報告事項

1. 土木学会『シビル NPO 連携プラットフォーム(CNCP)』について

(1) 当会の紹介記事

当会を紹介する記事の依頼があり、2ページに示す原稿を提出した。パンフレットを作成して以来、内容を充実させる活動が無く、苦勞しているのが実態である。

(2) 意見交換会

CNCP 会員の意見交換会が3ページに示すように企画された。事務局が一月中旬から2月中旬まで体調を崩し、同意見交換会には出席できなかった。意見交換会に参加した会員は、法人正会員8(20)、個人正会員9(21)、コンサル賛助会員4(15)、建設会社賛助会員7(15)の合計28(71)会員であった。数値は参加会員数、括弧内は会員数を示す。当日配布された資料をページ4に示す。

◆ 会員紹介

NPO 法人 温故創新の会

温故創新とは、旧技術者の持つ技術と新技術者の持つ技術を融合し、時代に適合する技術を創造して、社会に役立つ社会基盤を築くことを意味しています。すなわち、業務の第一線を退いた技術者が中核となって、自ら保有する知識、技術、ノウハウを、次世代に継承する事業を行っています。

● 設立理念

時代は変わっても技術のあり方は不変であり、その時代の価値観や技術革新に応じて適用方法を創造しなくななりません。一度失った技術を取り戻すのは至難の業です。

● 技術分野

国土保全・防災

交通・運輸施設

供給・処理施設

地域計画整備

地盤調査・補強

建物・構造物

施工関連技術

マネジメント

● 事業分野

技術継承事業

技術に関する相談、助言及び指導。出前講座、技術の継承に関する教材の作成などを行います。



地下空間活用の出前講座

指導育成事業

能力開発に関わる個別指導、人間力、技術力等の向上に資する講話などを行います



某社における若手技術者指導懇談会

技術普及事業

技術の研究開発、技術セミナーの開催、一般市民との技術コミュニケーションを行います



リニアメトロ発表会

その他の事業

各種類似団体との技術交流、教材ビデオの上映・解説、回顧録の作成などを行います。



合同シンポジウム

特定非営利活動法人 温故創新の会

代表 清野茂次

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目4番地3 建設コンサルタンツ厚生年金基金内

e-mail ; office@onkososhin.com

CNCP 会員 意見交換会の案内 (案)

開催趣旨

NPO 法人 CNCP が発足して 9 カ月が経とうとしています。この間、多くの法人正会員、個人正会員および賛助会員のご参加を得ることができました。

会員の皆様へは CNCP 通信を通じての発信に努めています。一方で皆様のご意見については同通信で発表していただく場も設けていますが、十分なものとは言えません。

このような状況を踏まえて、定期的な意見交換の場を設けることを検討していますが、今回その創設も含めて下記の要領で意見交換会を開くこととしました。

土木学会 100 周年記念出版の一環として「インフラ・まちづくりとシビル NPO - 補完から主役の一人へ - 」がこの 11 月に出版されたことは CNCP 通信第 8 号で紹介していますが、著者の多くは CNCP の関係者です。本意見交換会では、この本を参照しながら現状活動についてお話しし、それを踏まえて意見交換を図ろうと考えています。

皆様の奮ってのご参加をお願いします。

日時&場所

- ・日時；平成 27 年 2 月 10 日(火) 3:30~5:30PM
- ・場所；ちよだプラットフォームスクエア
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-21
<http://www.yamori.jp/access/>

定員；60 名 事前申し込み

(基本的には CNCP 会員の関係者を対象としていますが、一般参加も可。)

参加費；1,000 円

申し込み

- ・方法；CNCP 事務局 内藤事務局長
info@npo-cnnp.org
- ・期日；平成 27 年 1 月 30 日(金)

内容

- (1)開催挨拶 5 分
- (2)会員とその活動の紹介 45 分
- (3)活動の現況と意見交換・・・100 周年記念出版図書も参照しながら 60 分
- (4) 定期的な意見交換の場(交流サロンの)創設について 10 分

使用テキスト

土木学会 100 周年記念出版「インフラ・まちづくりとシビル NPO - 補完から主役の一人へ - 」

* 事前の購入、あるいはその場での購入をお願いします。

購入方法については CNCP 通信第 8 号に詳細を記載しています。

(終了後、同スクエア 1 階の fune で 6 時から 1 時間程度、懇談会開催。参加費別途 2,000 円)



CNCP 教育研修活動の考え方と「(仮称) シニアパワーアップ研修」プログラム

1. CNCP 教育・研修活動の考え方

- (1) シビル NPO 基礎講座
- (2) シビル NPO 運営実務講座
- (3) 市民活動コーディネーター養成講座
- (4) 対外広報セミナー

CNCP教育・研修活動の考え方										
研修コース案 (仮称)	内容	概要	受講対象者							
			CNCP	CNCP法人会員	個人会員	法人賛助 会員	一般			
			理事・ 運営委員	理事等 管理者	一般会員	正会員・ 賛助会員	社員等 関係者	土木学会 会員	行政(特に 市町村)	会員外NPO 法人会員
1. シビルNPO 基礎講座	実態把握と 課題認識	現会員が自らの経験および知見をベースに話題提供すると共に、参加者との意見交換等で得た疑問点・要望や革新的意見をCNCPの運営に反映する。 (例) ①シビルNPO概論 社会的意義と課題 ②シビルNPOの事例紹介 ③シビルNPOについてのグループ討議 (あるべき論と活動展開等) 【講師】：CNCP内部・必要により関連知見者				【優先順位2】 CNCP教育研修プログラム (シビルNPO実務者拡大と活動活性化)			【優先順位4】 シビルNPO活動PRプログラム (シビルNPO活動底辺の拡大)	
2. シビルNPO 運営実務 講座	経営知識	NPOの運営に携わる方に対して、税務・労務・経理など、運営の総務に関するセミナー(シビルNPOに特化した内容にする) 【講師】：CNCP内部・各種専門家		○						
3. 市民活動 コーディネーター 養成講座	市民連携	市民ワークショップの運営・ファシリテーションなどに必要な、 ①参加者の発言をうまく引き出し、 ②話の流れをわかりやすく整理し、 ③合意形成をコーディネートするためのスキルを習得する。 【講師】：CNCP内部・他分野での実務精通者	○	○	○			○		
	技術支援	技術顧問を派遣するに当たり、相手先の課題・懸念事項を的確に把握・整理したり、適切に対応するための留意点を習得し、事例紹介や演習を通じて学ぶ。 【講師】：CNCP内部・シビルNPO分野での実務精通者・専門研究者を招聘				【優先順位3】 自治体技術支援者育成プログラム (自治体技術支援事業との連携)				
4. 対外広報 セミナー	活動報告・ 啓蒙	法人会員のNPO活動や、CNCP内の研究会・WGの成果報告 【発表者】：CNCP会員				【優先順位1】 年度定例セミナー				
	提言活動 関連	例えば自治体インフラメンテ政策のように、パブコメ等を通じた提言や提案等を外部関係者を招いてより広くPRし、その提言・提案の実現に結び付けていく。 【発表者】：CNCP		○	○	○	○	○	○	○
	時流研究	運営会議での提案による(法人会員によるセミナー支援等を含む)	○	○	○	○	○	○	○	○

2. 教育・研修活動の優先順位

- 【優先順位 1】年度定例セミナー(毎年定時総会に合わせて開催を理事会で提案済み)
- 【優先順位 2】CNCP 教育研修プログラム(シビル NPO 実務者拡大と活動活性化)
- 【優先順位 3】自治体技術支援者育成プログラム(自治体技術支援事業との連携)
- 【優先順位 4】シビル NPO 活動 PR プログラム(シビル NPO 活動底辺の拡大)

3. (仮称) シニアパワーアップ研修プログラム

優先順位 2 の CNCP 教育研修の一環として「(仮称) シニアパワーアップ研修」を検討

背景

とくにシビル NPO 組織では多くの関係者がシニア(エンジニア)であり、それぞれが現役時代に培われた専門知識と経験を生かして NPO で社会貢献をとの思いをいただいているが、すでにその NPO 会員として登録しているシニアも、まだ現役だが近い将来の参画を選択肢の一つと志すシニアも、NPO 法人活動の実態や実務に通じていないという齟齬がある。

目的

例えば表の概要欄に示すような、現会員が自らの経験および知見をベースに話題提供すると共に、参加者との意見交換等で得た疑問点・要望や革新的意見をシニア個々人の NPO 活動参画インセンティブとして反映できるとともに、その成果が CNCP の活動にも生かせるようにしたい。

具体化

- ・1 月度の運営会議を経て、2 月初めに法人正会員・賛助会を対象にアンケート(意見)を依頼。
- ・その結果を受けて研修内容等企画案作成し、法人正・賛助会員へのヒアリングを経て、第 1 回研修会の年度内(7 月末まで)開催を目指したい。

会員各位のご支援をお願いしたい。

(3)会員の状況

2月23日現在の会員は次のとおりであり、昨年(2019年)の11月24日以降、法人正会員が1法人、法人賛助会員が3法人増えている。(リスト中※を表記)

法人正会員

- 1 NPO いきいき 35 皆本 義典
- 2 NPO 美し国づくり協会 西山 英勝
- 3 NPO シビルサポートネットワーク 辻田 満
- 4 NPO シビルまちづくりステーション 花村 義久
- 5 NPO とうほく PPP・PFI 協会 川村 巖
- 6 NPO リサイクル技術振興会 下村 嘉平衛
- 7 NPO 温故創新の会 大野 博久
- 8 NPO 社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会 有岡 正樹
- 9 NPO 州都広島を実現する会 野村 吉春
- 10 NPO 全国街道交流会議 藤本 貴也
- 11 NPO 電線のない街づくり支援ネットワーク 井上 利一
- 12 NPO 道普請人 福林 良典
- 13 社団法人未来の都市・交通・鉄道を構想する プラットフォーム 山本 卓朗
- 14 NPO 社会基盤の超長寿命化を考える日本会議 川俣 孝治
- 15 NPO 日本水フォーラム 木暮 陽一
- 16 NPO 地域インフラ研究会 高橋 邦夫
- 17 NPO 風土工学デザイン研究所 藤澤 友美
- 18 NPO 日本 PFI・PPP 協会 植田 和男
- 19 NPO 高知社会基盤システム研究センター 飛崎利永子
- 20 NPO 建設技術監査センター 五艘 章

※21 NPO 埼玉県建設発生土リサイクル協会(※)

個人正会員

- 1 青山 俊樹 日本河川協会理事
- 2 阿部 宗太郎 NPO 森林資源活用バンク
- 3 大田 弘 (株)熊谷組代表取締役会長
- 4 駒田 智久 オフィス パスタタイム
- 5 坂本 文夫 坂本技術士事務所
- 6 世古 一穂 NPO 研修・情報センター代表理事
- 7 内藤 堅一 (株)コーケン技師長
- 8 比奈地 信雄 NPO シビルまちづくりステーション
- 9 星野 隆幸 有限会社仁礼
- 10 松本 健一 (株)アテナ
- 11 三井 元子 NPO あらかわ学会副理事長
- 12 皆川 勝 東京都市大学工学部都市工学科教授
- 13 山岡 和彦 NPO 美し国づくり協会
- 14 高橋 万里子 NPO 水・環境ネット東北
- 15 和田 恵 (株)日刊建設通信新聞社
- 16 木村 達夫 NPO あそ地下足袋倶楽部
- 17 三上 靖彦 NPO 茨城の暮らしと景観を考える会
- 18 橋本 鋼太郎 土木学会
- 19 山下 正章 NPO 関西ミニウイングス
- 20 中島 満香 プライスウォーターハウスコーパス(株)
- 21 小松崎 暁子 (株)ケイズプラン

法人賛助会員

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 株式会社エイト日本技術開発 | 2 エヌシーイー株式会社 |
| 3 株式会社建設技術研究所 | 4 株式会社ドーコン |

- | | | | |
|----|-------------------|----|-------------|
| 5 | パシフィックコンサルタンツ株式会社 | 6 | 復建調査設計株式会社 |
| 7 | 株式会社復建技術コンサルタント | 8 | 株式会社日水コン |
| 9 | 株式会社復建エンジニアリング | 10 | 日本工営株式会社 |
| 11 | シンワ技研コンサルタント(株) | 12 | 国際航業株式会社 |
| 13 | 株式会社オリエンタルコンサルタンツ | 14 | 清水建設株式会社 |
| 15 | 株式会社 アイ・エス・エス創研 | 16 | 株式会社大林組 |
| 17 | 第一復建株式会社 | 18 | 鹿島建設株式会社 |
| 19 | 株式会社熊谷組 | 20 | 鉄建建設株式会社 |
| 21 | 株式会社安藤・間 | 22 | 東亜建設工業株式会社 |
| 23 | 大成建設株式会社 | 24 | 前田建設工業株式会社 |
| 25 | 西松建設株式会社 | 26 | 五洋建設株式会社 |
| 27 | 東急建設株式会社 | 28 | 株式会社奥村組 |
| 29 | 株式会社フジタ(※) | 30 | 飛鳥建設株式会社(※) |
| 31 | 株式会社竹中土木(※) | | |

・ 審議事項

1. 提供サービスのHPへの掲載方法について

(1) アンケートに関して

秋口

- ① 標記について、私の分野について異論はありません。その他については、まだ、会の活動状況をよく把握していないので、コメントしずらく、大野さんに一任します。→ご意見のとおりにする。

佐藤

- ① 厳しい言い方ですが、本当に今のメンバーで出来ること(他組織との連携の可能性を含めて)再整理してみたら如何でしょうか。→できるだけ意見に沿う形で反映する。
- ② HP に関してはアクセス件数をカウントできること、HP(会の活動)に関して、気づいたこと意見等を記入、もしくはマークしてもらう仕組みを構築することも有効ではないでしょうか。→アクセス数については既にカウンターを設定してある。また意見については、Twitter ほかで吸い上げる仕組みは構築してある。

(2) 項目全般に関して

佐藤

- ① 建物は建築の意味合いが強く、土木構造物が包括する意味合いから妥当ではないか。→橋梁等に変更する。表一1、表一2、サービス内容の具体例に反映する。
- ② 国土保全・防災は治山、治水、砂防、防潮等河川、海岸分野に限定しますか。→原案はそのように考えていたが、大長、花里両会員の意見もあり議論する余地がある。

(3) 表一1に関して

大長 (意見反映案も同じ)

	A 国土保全・防災	B 交通・運輸施設	C 供給・処理施設	D 地域計画整備	E 地盤調査・補強	F 橋梁等構造物	G 施工関連技術	H マネジメント	備考
秋口									
安藤									
大塚									
大月									
大野									
佐藤									
須山									
清野									
大長	~~~~	~~~~	~~~~		~~~~	~~~~	~~~~		
中尾									
花里									
三好									
三輪									
吉岡								~~~~	
渡瀬									
渡部									

(4)表—2に関して

佐藤

	A 国土保全・防災	B 交通・運輸施設	C 供給・処理施設	D 地域計画整備	E 地盤調査・補強	F 建物・構造物	G 施工関連技術	H マネジメント	備考
(1) 技術継承(技術助言及び指導、教材作成など)	×	◎	×	○	○	◎	○	○	◎も疑問(佐藤)
(2) 指導育成(能力開発指導、教材作成など)	×	◎	×	○	○	◎	○	○	
(3) 技術普及(研究開発、セミナー開催など)	×	◎	×	○	○	◎	○	○	
(4) 技術協力(他団体との技術交流など)	×	◎	×	○	○	◎	○	○	

★教材作成、技術普及(研究開発、セミナー開催等)は実質的に無理、(4)との連携で可能性。(佐藤)

大長

	A 国土保全・防災	B 交通・運輸施設	C 供給・処理施設	D 地域計画整備	E 地盤調査・補強	F 建物・構造物	G 施工関連技術	H マネジメント	備考
(1) 技術継承(技術助言及び指導、教材作成など)	~~~~	◎	~~~~	○	○	◎	○	○	斜面对策、雨水浸透施設等(大長)

花里

A国土保全・防災については、B～Gと関係が深いと考える。その意味から、印と表示した。

	A 国土保全・防災	B 交通・運輸施設	C 供給・処理施設	D 地域計画整備	E 地盤調査・補強	F 建物・構造物	G 施工関連技術	H マネジメント	備考
(1) 技術継承(技術助言及び指導、教材作成など)	◎	◎	×	○	○	◎	○	○	
(2) 指導育成(能力開発指導、教材作成など)	◎	◎	×	○	○	◎	○	○	
(3) 技術普及(研究開発、セミナー開催など)	◎	◎	×	○	○	◎	○	○	
(4) 技術協力(他団体との技術交流など)	◎	◎	×	○	○	◎	○	○	

■意見の反映案 (会議提出版)

	A 国土保全・防災	B 交通・運輸施設	C 供給・処理施設	D 地域計画整備	E 地盤調査・補強	F 橋梁等構造物	G 施工関連技術	H マネジメント	備考
(1) 技術継承(技術のレビュー、アドバイス、指導など)	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	
(2) 指導育成(能力開発に関わる指導など)	◎	◎	×	○	○	◎	○	○	
(3) 技術普及(他との連携によるシンポジウム開催など)	◎	◎	×	○	○	◎	○	○	
(4) 技術協力(他団体との技術交流など)	◎	◎	×	○	○	◎	○	○	

会議において出された意見により、つぎのように修正となった。

	A 国土 保全 ・ 防災	B 交通 ・ 運輸 施設	C 供給 ・ 処理 施設	D 地域 計画 整備	E 地盤 調査 ・ 補強	F 橋梁 等 構造 物	G 施工 関連 技術	H マネ ジメン ト	備考
(1) 技術継承(技術助言及び指導、教材作成など)	○	○	○	○	○	○	○	○	
(2) 指導育成(能力開発指導、教材作成など)	△	◎	△	○	○	◎	○	○	
(3) 技術普及(セミナー開催など)	△	◎	△	○	○	◎	○	○	
(4) 技術協力(他団体との技術交流など)	△	◎	△	○	○	◎	○	○	

(5) サービス内容の具体例について

※以下の修正案は表現方法や記載の順序を除いて、原則として意見反映案と考える。

A 国土保全・防災：須山、大長

須山富直：河川伝統工法の紹介

大長欣弘：宅地・道路防災用斜面調査・対策(大長)

B 交通・運輸施設：吉岡、安藤、佐藤、大長、三好、三輪、大月、大野

三好敬直：道路事業化に向けた路線選定のための道路設計

三輪信雄：道路事業化に向けた路線選定のための道路計画・設計及び関連施設の計画・設計(三輪)

三好敬直：道路事業化に向けた最適路線の選定のための道路設計……健康状態から無理かも(佐藤)

三輪信雄：道路事業化に向けた最適路線の選定のための道路設計

大月雅雄：○○○○

大野博久：道路計画と環境問題

安藤正博：リニア外口発展の鍵

吉岡安司：踏切事故の回避方法 ―立体交差工事の早業―

：踏切事故は何故無くならないか(吉岡)

渡瀬英哉：古い鉄道橋 特に鉄ゲタの強度(耐力)照査

：新幹線を含む各種鋼鉄道橋の設計(計画～詳細設計)(渡瀬)

佐藤鐵夫：構造計画・設計、既設構造物の補修、補強計画・設計指導(佐藤)

大長欣弘：交通による騒音・振動低減化対策の調査と最適舗装設計(大長)

C 供給・処理施設：大長

大長欣弘：雨水浸透施設の調査・設計(大長)

D 地域計画整備：秋口、大野

秋口守國：都市及び地方に関わる計画全般の指導(大野)

大野博久：環境面を重視した都市及び地方の整備計画(大野)

E 地盤調査・補強：須山、大長

須山富直：○○○○

大長欣弘：地盤調査資料の活用法

F 橋梁等構造物：清野、佐藤、花里、中尾、吉岡(吉岡)……建物表記を見直す。(佐藤)

清野茂次：橋梁等構造物設計の基本(清野)

：沈埋トンネルの理論、調査、計画、設計、施工の重要ポイントの指導(大野)

佐藤鐵夫：大都市の複雑な構造会における技術的な問題

花里久：鋼構造物設計の基本と応用

中尾政徳:複合構造及びプレキャスト構造技術の紹介
橋梁の耐震補強、コンクリート構造物の健全度診断及び補修(中尾)
大塚正幸:トンネル技術に関わる知見及び情報の提供
佐藤鐵夫:構造計画・設計、既設構造物の補修、補強計画・設計指導(佐藤)
吉岡安司:都市鉄道の新設、改良工事設計のキーポイント(吉岡)

G 施工関連技術：大長、佐藤、吉岡

佐藤鐵夫:新設構造物施工、既設構造物補修・補強施工計画指導(佐藤)
大長欣弘:土構造物の品質・施工管理及び道路舗装の品質・施工管理(大長)
吉岡安司:都市鉄道の安全施工技術(吉岡)

H マネジメント：清野、安藤、花里、渡部、吉岡、大野

花里 久:設計ミス防止とマネジメントシステム(花里)
渡部 篤:設計の信頼性－設計審査(デザイン・レビュー)の適用－
安藤正博:製品品質と技術者倫理
清野茂次:技術者倫理、設計論、コンサルタント論、経営論等
安藤正博:研究開発における技術者の姿勢
渡部 篤:若手技術者の早期育成
大野博久:土木を温故創新する
吉岡安司:鉄道敷設免許の取得方法(吉岡)

(6)自由意見

佐藤

実働できる他組織との連携を前提とした、レビュー、アドバイス、指導等に活路があるのではないのでしょうか。単独対応は過去の経緯、実績から難しいと考えます。(佐藤) 事務局案としては表 - 2 に反映したが、会議の場で再度原案に近い形に修正される。

大長

ご存知のように建設部門は、網羅する範囲が広いのでメジャーな専門部門と関連する部門の一部に精通する人が多いのではないのでしょうか？ そんなつもりで上の2)サービス内容の具体例をちょっと背伸びして加筆したものです。(大長) 表 - 1、表 - 2 及び具体例に反映

中尾

提供サービスのターゲットを将来の土木技術者育成として小・中学校から高校生をターゲットとし、技術移転・伝承として国交省及び県・市町村等の官を含めてターゲットにした行動にした方が、我々の組織の年齢構成から考えた場合、現実性があるのではないのでしょうか。 例えば吉岡会員の意見に乗っかる方法で反映することも可能と考える。
ホームページの内容にも上記の点を盛り込んで作成した方が良いのではないのでしょうか。 と同様に吉岡会員の意見に乗っかる方法で反映することも可能と考える。

花里

サービス内容の表中で、A 国土保全・防災については、B～G と関係が深いと考える。その意味から、印と表示した。 佐藤会員、大長会員の意見とも関連するが、ここでは花里会員の意見を取り入れる。

三輪

サービス内容(項目)は非常にわかりやすい項目です。
自分の担当について多少修正しました。道路計画(整備順位、整備手法)並びに関連施設(IC, SA, PA 等) ご意見通りに反映する。

吉岡

学生や若い技術者がちょっと読んで見たい様な設計技術上のノウハウ集を技術部門別に掲載する。相当量のエネルギーが必要であるため、予め技術の範囲とレベルを議論しておく必要がある。土木学会の出版図書などを参考にし、事務局が検討する。

話題提供（資料は別途配布）

話 題：『異国船来航と幕府の海防』
提供者：須山副理事長

■参考

1. 建設コンサルタントの登録規定による分類

河川、砂防及び海岸・海洋部門	港湾及び空港部門	水力土木部門
道路部門	鉄道部門	上水道及び工業用水道部門
下水道部門	農業土木部門	森林土木部門
水産土木部門	廃棄物部門	造園部門
都市計画及び地方計画部門	地質部門	土質及び基礎部門
鋼構造及びコンクリート部門	トンネル部門	施工計画、施工設備及び積算部門
建設環境部門	機械部門	21電気電子部門

2. サービス分野（技術部門）と表示方法

1) 現行踏襲案（建設コンサルタント登録部門型）

現在のメンバーで対応できる分野を順次追加する。

- a 都市計画 : (秋口守國)、(大野博久)
- b 道路 : 三好敬直、三輪信雄、(大月雅雄)、大野博久
- c 鉄道 : 安藤正博、吉岡安司、渡瀬英哉、佐藤鐵夫
- d 土質及び基礎 : 大長欣弘、須山富直
- e 橋梁・構造 : 清野茂次、佐藤鐵夫、花里久、中尾政徳
- f トンネル : 大塚正幸、清野茂次、佐藤鐵夫
- g 品質 : 安藤正博、花里久、渡部篤
- h プロフェッショナル : 清野茂次、安藤正博、渡部篤、大野博久

2) 施設集約案

- A 国土保全・防災 : 農業土木 森林土木 水産土木 河川、砂防及び海岸・海洋 (不在)
- B 交通・運輸施設 : 港湾及び空港 道路 鉄道 (吉岡、安藤、佐藤、三好、三輪、大野)
- C 供給・処理施設 : 上水道及び工業用水道 下水道 廃棄物 電力土木 (不在)
- D 地域計画整備 : 都市計画及び地方計画 造園 (秋口、大野)
- E 地盤調査・補強 : 土質及び基礎 地質 (須山、大長、…)
- F 建物・構造物 : 鋼構造及びコンクリート トンネル (清野、佐藤、花里、中尾、…)
- G 施工関連技術 : 施工計画、施工設備及び積算 建設環境 機械 電気電子 (大長、……)
- H マネジメント : 品質 人材 倫理 技術 (清野、安藤、花里、渡部、大野、…)

3. サービスの種類（事業）

東京都に提出した定款に示されている活動の種類（第4条）と事業の種類（第5条）は次のとおりである。

1) 活動の種類

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 環境の保全を図る活動
- (4) 地域安全活動
- (5) 国際協力の活動
- (6) 科学技術の振興を図る活動
- (7) 以上の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

2) 事業の種類

- (1) 技術継承事業

- 技術に関する相談、助言および指導
- 技術講師の出張指導
- 技術の継承に関わる教材の作成
- (2) 指導育成事業
 - 能力開発に関わる個別指導
 - 人間力、技術力等の向上に資する教材の作成
- (3) 技術普及事業
 - 産学官による技術の研究開発
 - 技術セミナーの開催
 - 一般市民との技術コミュニケーション
- (4) 技術協力事業
 - 各種類似団体との技術交流
 - 海外への技術協力・技術支援
- (5) 情報発信事業
 - ホームページの開設・運営
 - 機関誌等の発行

4. 提供サービス分野の表示方法

	A 国土 保全 ・ 防災	B 交通 ・ 運輸 施設	C 供給 ・ 処理 施設	D 地域 計画 整備	E 地盤 調査 ・ 補強	F 建物 ・ 構造 物	G 施工 関連 技術	H マネ ジメン ト	備考
(1) 技術継承									
①技術に関する相談、助言および指導	○	△	○	○	○	○	○		
②技術講師の出張指導	○	△	○	○	○	○	○		
③技術の継承に関わる教材の作成	○	△	○	○	○	○	○		
(2) 指導育成									
①能力開発に関わる個別指導								○	
②人間力、技術力等の向上に資する教材の作成								○	
(3) 技術普及									
①産学官による技術の研究開発	○	△	○	○	○	○	○		
②技術セミナーの開催	○	△	○	○	○	○	○		
③一般市民との技術コミュニケーション	○	△	○	○	○	○	○	○	
(4) 技術協力									
①各種類似団体との技術交流	○	△	○	○	○	○	○		
②海外への技術協力・技術支援					○				